

# 沙流川

保護者向け校長通信

NO. 13

発行日  
令和5年12月22日

## 令和5年を振り返って

令和5年も残すところあとわずかとなりました。今年はどうな年だったでしょうか。学校現場は、コロナが5類になり、教育活動がコロナ前に少しずつ戻り始めてきています。

12月の職員会議でも、職員に話しましたが、全校が集まって行う集会や行事が実施できるようになり、子どもたちの元気な声が、学び舎に響き渡るようになりました。このような状況を見ていて感じることは、コロナ禍で生活してきた影響が、細かなところに現れていることです。

その一つが、「互いを理解し合う」ということです。コロナの感染予防のため、できるだけ飛沫が飛ばないように、距離を置いて話したり、触れあうことを控えたりしたことです。他人と接触することを控えていたことで、どのように接したらいいか、なんて話したらいいかなど、子どもが戸惑う場面を多く見かけました。素直に聞けばいいことも、たたいたりちょっかいをかけたりして、話すきっかけをつくり、反感をもたれることもありました。

よく「人は、一人では生きていけない」といわれますが、人という漢字は、お互いを支え合わないと成り立たないということを表しています。そのことから、相手を意識して、自分の考えを伝えながら、よりよい解決策を協働して見つけていくことが、「人として存在する意義」だと感じています。

先日、「ラララ集会」（本校の歌声集会の名称）がありました。6年生の指揮者が、指揮に自信が持てなかったので、練習をしました。休み時間、昼休みと一緒に時間を割いてくれたピアノ伴奏の子、そして、それに付き添って、伴奏に合わせて歌ってくれた子、本当に温かい優しさがあふれる空間で一緒に過ごせたことを幸せに感じています。

また、地域行事で行われた「子ども食堂」に参加した本校の子どもたちの参加態度が素晴らしかったとご連絡をいただきました。積極的に片付けやトイレ清掃までしてくれたそうです。こんな話を聞くと、これまで学校で取り組んできたことが、生かされていることを実感して、うれしくなりました。「人の話をしっかり聴いて行動できる子」に育てている証だと思います。

この1年、課題も多くありましたが、本校職員が、子どもたちを温かく見守り、きめ細かな指導を日々積み上げてきたことが、子どもたちの行動で示されたのだと自負しています。大切なのは、その陰には、ご家庭での手厚いご指導や少年団や習い事、地域の方々の温かいご支援・ご指導が合ったからだだと心から感謝しているところです。

今年度で150周年を迎えた富川小学校ですが、これからも「誰一人取り残さない教育の実現」を目指していきますので、これからも、温かいご支援ご協力をお願いいたします。